



変容

何かが形を変え、姿を変えて現れるということ、いわゆる「変容 metamorphosis」の現象にたいして、我々はいつも恐れと憧れの胸い交ぜになった感情を抱いてきた。

そもそもあるものが一つのかたち(morphé)をとるということは、それが流動的であることをやめ、安定し、把握可能になるということの意味すると同時に、それが固まり、柔軟性を失って、限界あるものとなるということをも意味している。それゆえ「変容」は、我々が世界に対して持っている確かなつながりを揺るがすものとして、時に我々を不安に、さらには絶望に陥れるものである一方で、一つの形がもつ限界を乗り越え、行き詰まりを打破することを可能にするものとして我々の密かな欲望を掻き立ててきた。破壊と種を接した野放図な力の発露としての「変容」が我々に及ぼしてきた魅力を示す事例は、オヴィディウスの「変身物語」から現代の変身・合体ロボットアニメまで枚挙に暇がない。さらにこうした「作品」が展開する世界の外に眼を転じてみても、生物の変態、脳の可塑性、政体の変革(革命)、あるいはまた民俗学や精神医学で報告される憑依や解離、性転換、ウェブ上のアバターなど、我々を魅惑して止まない「変容」の具体的事例の数々をみとめることができる。この授業では、こうしたさまざまなトピにおいて「変容」とその引き起こす波紋について考える。

metamorphôsis

2012年度冬学期
テーマ講義 **変容**

2012 **10/10(水)** — **11/16(水)** 水曜5限

教室: 東京大学駒場キャンパス 情報教育棟4階 遠隔講義室

10/10(水) 原 和之 (地域文化研究・精神分析学)
精神分析における主体の変容 I

10/17(水) 原 和之 (地域文化研究・精神分析学)
精神分析における主体の変容 II

10/24(水) 開 一夫 (広域システム科学・認知科学、社会脳科学)
心と脳の発達的変容(仮)

10/31(水) 高橋 英海 (地域文化研究・シリア学)
キリスト教の変容とキリスト教における変容

11/7(水) 清水 晶子 (情報学環・フェミニズム/クィア理論)
変わるもの、変えられないもの、変わってしまうもの I

11/14(水) 清水 晶子 (情報学環・フェミニズム/クィア理論)
変わるもの、変えられないもの、変わってしまうもの II

11/21(水) 酒井 邦嘉 (相関基礎科学・言語脳科学)
脳から見た人間言語の変容

11/28(水) 渡邊 雄一郎 (生命環境科学・生命環境学)
生物が生きていく上でみせる変容

12/5(水) 藤原 晴彦 (先端生命科学・分子生物学)
昆虫の擬態と変態の生物学

12/12(水) 廣瀬 通孝 (情報理工・バーチャルリアリティー)
記憶と記録の変容 I (仮)

12/19(水) 谷川 智洋 (情報理工・バーチャルリアリティー)
記憶と記録の変容 II (仮)

1/9(水) 渡邊 正男 (史料編纂所・日本中世史)
14世紀日本における社会秩序形成・維持構造の変化

1/16(水) 伊藤 徳也 (超域文化科学・中国文学)
変容としての顔魔



主催 東京大学リベラルアーツ・プログラム (LAP) 南京

http://www.lap.c.u-tokyo.ac.jp/ お問い合わせ: admin@lap.c.u-tokyo.ac.jp Twitter ID: @LAP_UT